



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ外交：トルコの影響力についての研究報告

(19日付現地紙)

19日付現地紙は、トルコの有力シンクタンク、国際戦略研究所（USAK）が発出したトルコの影響力に関する報告書について報じている。

1. ここ10年間、トルコは中東においてその役割を著しく拡大してきたが、USAKが発出した研究報告書は、「リージョナル・パワー」となるには依然、期待値と実際の能力の間に埋めなければならないギャップが存在することを指摘している。
2. 同研究報告書は、外交・経済・ソフトパワーの各分野におけるトルコの影響力について述べたもので、「トルコが果たしたいと望んでいる役割と、トルコの実際の能力の間には、大きな不均衡が存在する」として、これら3つの分野において、国・民間・市民社会が共同で包括的に努力することを呼びかけている。
3. 同研究報告書は、「我々は、大なり小なり地域のアクターはトルコに追従する、などとは言い得ない。現在のトルコへの関心は、共感のレベルにとどまっている。特定の政策やレトリックについてのいかなる失敗・誤解も、トルコが享受している（地域諸国からの）好ましい姿勢を急激に喪失させる可能性を秘めている」と指摘し、トルコの新たな地域的影響力が短命に終わりかねないと警告している。
4. 同研究報告書によれば、他の主要国との比較において、トルコ外務省は、厳しい予算・人員不足に直面している。先進国のみならずインドやブラジルを含む10カ国の中で、4億3600万ユーロというトルコ外務省の予算は最も低い。5533人という職員数は、インドやブラジルには勝っているものの、英国（1万7100人）や仏国（1万5008人）からは遠く引き離されている。同研究報告書はまた、アラビア語能力を有する外交官が26人に過ぎないことを強調し、それが「現地情報源への浸透」の妨げになっているとしている。
5. 経済分野について、同研究報告書は、地域諸国との貿易は拡大しているが、トルコの輸出は容易に置き換え可能な安価な商品が主で、ハイテク商品が占める割合は3.5%に過ぎないと指摘している。同研究報告書は、トルコが貿易の「重心」を決め損ねたことが、

将来的に大きなデメリットになりかねないと結論づけている。

6. ソフトパワーに関し、同研究報告書によれば、トルコのテレビドラマがアラブ地域において大きな人気を集め、観光が繁栄している。しかしながら、トルコのメディアは、アラビア語の領域ではほぼ不在と言ってよく、地域のニュース・アジェンダへの影響力はわずかであり、TRTのアラビア語チャンネルですら、イランや仏国、独国、中国および米国の競合社に劣後している。
  
7. 同研究報告書はまた、アラブ地域におけるトルコのテレビドラマの人気が必ずしもトルコにとってポジティブであることを意味しないと警告している。レポートに掲載されているヨルダンでの世論調査によれば、83%の人がトルコのドラマを見たことがあるが、51%の人が「隠蔽された世俗主義者の価値観」による「文化的攻撃」であると見なしており、47%の人が自国の若者に悪い影響を与えているとしている。なお、同研究報告書には、トルコの軍事力についての評価は含まれていない。